

議題 2 経膈超音波断層法 wave sign はダグラス窩閉塞の評価に有用か

(責任医師/申請医師 西田 浩孝 婦人科医員)

◇医療行為等の概要

現在日本では術前検査に経膈超音波断層法やMRI法などが汎用されているが、ダグラス窩閉塞の評価は容易ではない。腹腔鏡手術予定の患者を対象とし、wave signの有無でダグラス窩閉塞を予測し、腹腔鏡手術の術中所見にてダグラス窩閉塞を判定する。

○医療行為等の対象及び実施場所

外来、病棟、手術室

○医療行為等における医学倫理的配慮について

①医療行為等の対象となる個人の人権擁護

個人情報の扱いは、個人が特定できないように処理する。

②医療行為等の対象となる者に理解を求め同意を得る方法

実施項目は通常の術前検査の中で行っているものであり、手術前に通常通り同意書を取得する。

③医療行為等によって生ずる個人への不利益並びに危険性に対する配慮

実施項目は通常の術前検査の中で行っているものであり、不利益や危険性はない。

④予測される医学上の貢献

ダグラス窩閉塞があれば、尿管損傷、腸管損傷のリスクが増大し、高難易度の手術となる。合併症が起これば、手術時間の延長や医療費増大にもつながる。そのため、術前にダグラス窩閉塞を予測できれば、適切な医療器具や医療スタッフの配置、また、患者に事前に合併症の説明や術前処置を行うことができる。以上よりダグラス窩閉塞の診断方法を示すことは臨床上重要である。

⑤その他

◇医療倫理委員会での審査を必要とする理由

Prospectiveな調査であり、研究結果は、学会報告や論文投稿を検討しているので、院内の医療倫理委員会での審査が必要である。

◆審査結果

承認（詳細は別紙「医療倫理委員会審査結果通知書」参照）

以 上